

寅さん歩 その14

東京に こんなところ-18

平野 武宏

首都東京は徳川幕府の江戸から明治維新へ、そして関東大震災・太平洋戦争の被災で壊滅から復興、1964年（昭和39年）の東京オリンピックによる街並み・交通網の再整備と時代と共にその姿を変えています。そして2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、更に近代的な姿に生まれ変わろうとしています。

「寅さん歩」で東京を歩き回っている寅次郎は「東京に こんなところもあるのだ！」と思わせる場所に出会い、感動しています。新シリーズとして取り上げ、紹介します。

都民歴約5年の「寅次郎基準」で選んでおりますので、ご容赦ください。最寄り駅は代表例です。

～東京（福生）の酒蔵～

「JR駅からハイキング&ウォーキング」で福生を歩いた時に、コース内に石川酒造訪問(建物を外観から見る)がありました。

又、コース途中の観光案内所に立ち寄ると「東京の酒蔵」の紹介資料がありました。「江戸・明治期から良質な日本酒を造り続けている多摩地区の酒蔵6軒で、秩父山系の伏流水など酒造りに適した水も豊富、また小・中規模の酒蔵なのでクオリティーが担保されやすい」と記載。

今回は福生にある2軒の酒蔵を紹介します。残りの4軒はあきるの市2軒、青梅市・東村山市各1軒です。

【石川酒造】

福生市熊川1 最寄駅 JR中央本線 拝島駅



写真上は「石川酒造」正面入口です。下は敷地内の写真です。



本蔵酒造り工場



文久蔵



文久蔵から長屋門を望む



麦酒釜

文久3年（1863年）創業、明治20年（1887年）はビール製造にも着手するなどチャレンジ精神あふれる酒蔵で、蔵は国登録有形文化財です。敷地内にはレストランもあり地酒・地ビールが味わえます。訪問日が日曜日だったため、レストランは予約で満員でした。事前予約すれば、蔵見学・試飲も出来るとのこと。銘柄は「多満自慢」。

〔田村酒造場〕

福生市福生 626 最寄駅 JR 青海線 福生駅

後日、見学を問い合わせると、原則 10 名以上の事前申し込みとのことでしたが、月に一度、少人数希望者の受付・予約があると知り、申し込み、訪問しました。

新宿駅から青梅特快約 45 分で福生駅到着です。見学者は 18 名でしたが、半分は女性でした。

蔵と敷地内の説明を受け、最後は美味しいお酒の試飲です。

文政 5 年（1822 年）創業。徳川幕府が関東でお酒を造れと名水の地の名主に命じたとのこと。江戸～大正期に建てられた国登録有形文化財の蔵などが美しい構内。伝統を守りながら自由な発想を大切に独自性のある酒を造り、石川酒造とは親戚関係とのこと。蔵内・敷地内の撮影は自由でした。銘柄は「嘉泉」。



正面入口



醸造蔵

蔵内の製造タンク群です。





酒蔵脇の井戸



裏を流れる玉川上水



写真上は玉川上水を引き込んだ敷地内の庭。敷地内には工場と社長のお宅があり、平成 28 年(2016 年)4 月 12 日に天皇・皇后両陛下が福生市を訪れた際、工場見学に立ち寄られたそうです。

見学の締めめの試飲は「特別純米酒」と「純米吟醸」で大変美味しかったです。

【こぼれ話】寅次郎の実家も造り酒屋 ！?

祖父の代まで「牧野屋酒店」だとは聞いていましたが、ご先祖さまは小机城にいた小田原北条一門の武士とのこと。
豊臣秀吉の小田原攻めに遅れて出陣、藤沢の大庭まで来て小田原落城を知り、武士を捨て、平野（家系は桓武平氏伊勢氏流なので平家が野に下った？）と姓を変え、大庭で酒造りを始めたとのこと。

家康により「東海道」が整備されたので、「藤沢宿」に出て、
酒屋「牧野屋」を始めたようだ。

銘柄は「𠂇（ひとりじめ）」と伝えられています。

どこまで真実か、分かりませんが・・・

でも平野家の家紋は「北条の三つ鱗」（右の家紋）です。
いずれにしても没落した造り酒屋です。

藤沢宿で隣家の「旅籠小松屋」ご主人は使用人の
「飯盛り女」の墓を造り、供養して、後世にその名を
残しています。

また、寅次郎、実家の床の間にあった「真っ赤な角樽」
は記憶にあります。

写真右は「田村酒造」で見た木製の角樽、祝い事に
使われたとのこと。現在はプラスチック製とのこと。

寅次郎、家でお酒を飲まないのは「酒は売るもの、
外で飲むもの」が身に沁みついているようです。



今回は お江戸の時の鐘-1 です。

平野 寅次郎 拝